

普及活動情勢報告（令和元年 11 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

基本栽培技術の徹底とよりよい農業を目指しましょう！ ～穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会～



やっぱり基本が大事やね～

10月28日、穴内支部園芸部園芸研究会ナス部会が現地検討会と勉強会を開催し、生産者14人が出席しました。

現地検討会では環境制御機器導入ほ場3か所を視察し、生産者同士で機器の稼働時間や栽培管理等について情報を共有しました。勉強会では農業改良普及課から環境制御の効果を上向きさせるための基本栽培技術と、GAPの実践について指導しました。

参加者からは植物体の樹液を用いた生育診断に関心を示す様子が見られたほか、ハウス内の整理整頓や期限切れ農薬の適正な処理方法についての質問が出されました。

普及課は、今後も基本栽培技術とGAPの周知を行い、産地全体の底上げと生産者の栽培・経営管理に対する意識向上に取り組みます。

養液栽培の知識を深めよう！

～中芸地区野菜園芸研究会勉強会～



養液栽培について
熱心に講演を聴く参加者

10月29日、中芸地区野菜園芸研究会は安田町ふれあいセンターで勉強会を開催し、生産者15人が参加しました。

中芸地区では、近年、養液栽培を行う生産者が増加傾向にあることから、講師に合同会社つくばGBソリューションの池田英男先生を招いて、養液栽培の基礎知識や光合成についての勉強会を企画・実施しました。

参加者からは、曇雨天日のかん水や、根圏の生育診断の方法などの質問があり、有意義な講演会となりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、部会や研究会活動での指導を通じて、中芸地区の更なる栽培管理技術の向上に努めます。

新品目葉ニンニクの定着にむけて！ ～葉ニンニク栽培出荷検討会～



出荷はどうしようか～

10月31日、JA中芸集出荷場（安田町）で中芸および芸西地区の葉ニンニク生産者5人と今後の取組について検討しました。

農業改良普及課は、年内出荷に向けた実証ほの状況について説明し、JAからの出荷についても協議しました。

本年度は早い人で、9月下旬から定植が始まり12月には収穫が見込まれることから、「先進地の栽培の状況や荷造りを見てみたい」という要望に応え、南国市への視察も計画することにしました。

農業改良普及課は、葉ニンニクは、ユズやオクラ、水稻等の露地品目との組み合わせや施設野菜の出荷量の少ない時期の収穫が可能なることから、有利な補完品目として定着を推進します。

私たちだって日々勉強♪
～安芸支部園芸部園芸研究会ナス部会女性ナス勉強会～



他のハウスからは
学ぶことが多いね～

安芸支部園芸部園芸研究会ナス部会では年に数回経営者のパートナー（女性）のみで現地検討会を実施しています。11月7日、安田・田野地区環境制御技術導入ほ場2カ所で現地検討会を実施し、経営者のパートナー8人が出席しました。

農業改良普及課は、JA営農指導員と協力して現地検討会の準備や現地ほ場への案内を行いました。

生産者からは、「普段自分のハウスしか見ることがないのでこういった機会はいい勉強になる」、「自分のハウスの管理との違いを感じる」といった声が聞かれ、意欲的な生産者は園主に質問攻めをしている場面も見られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、女性生産者の栽培技術力アップの支援に努めます。

ダリアの安定生産を目指して!! ～芸西村のダリア部会現地検討会&視察～



農業技術センターで
新品種の特徴を確認しました

11月7日、芸西支部のダリア生産者全3人と農大生1人が現地検討会と農業技術センターへの視察に参加しました。

今回、農業改良普及課は、芸西村のダリア栽培技術の高位平準化を目指して、JAと協力して現地検討会と農業技術センターへの視察を企画・準備し、現地検討会では各ほ場の管理状況を確認するとともに、栽培管理や害虫防除について助言しました。

生産者からは、「これからの栽培管理について認識することができた」といった声が聞かれ、栽培管理への意識を向上することができました。

農業改良普及課は、JAと協力してダリアの産地振興を目指します。

ユズ園地の全体像が見える化!! ～ユズ園地台帳の作成進捗状況～



入河内地区のユズの全体像が
よくわかるようになったね～

農業改良普及課は、JAや安芸市役所と連携してユズ園地の形状や樹齢、本数などの情報を収集し、市内全域の園地台帳を作成しています。

11月13日までに入河内地区の調査がほぼ終了し、11月下旬から黒瀬地区の調査を行う予定です。

農業改良普及課は、ユズ園地台帳の完成後に担い手への園地集積や災害時の早期状況把握に活用を考えています。